

留学先国名 : カナダ

留学先学校名 : Timberline Secondary High School

留学期間 : 平成 28 年 1 月 29 日～平成 29 年 1 月 15 日

私は昨年 1 月から今年 1 月までカナダに留学していました。高校で留学を決めた理由は、親の勧めもあったこと、自分の夢を追うために英語を早い段階で学ぶことが必要だったからです。

留学に行くことと決めたものの、いざ直前になると親や友達、自分の今いる環境と 1 年間離れることが怖くなったときもありました。しかし、周りの人達に応援され、カナダに行って英語をたくさん話せること、たくさん友達を作ることに楽しさも覚えました。

いざ、留学生活が始まると、初めは皆が何を言っているのかちゃんと理解できず、何回も聞き直したりする自分に対して嫌悪感を抱くことも少なくありませんでした。カナダに着いて、初めは毎晩それに悩んで寝付けなかったり、泣き明かしたりしました。その時家族に初めて電話し、辛いことを相談したときは、自分は何ていい環境に置かれていたんだろうと改めて気づかされました。留学先では、洗濯など家事も全て自分でしなくては行けなくて、親は仕事をしながら家事も全てしてくれていて、それは本当にやってみないと理解できないことだったので、今更気づくのはとても遅かったけど今では親がいてくれることに対するのありがたみをたくさん感じています。ホストファミリーの仕事上の都合によりホストファミリーを替えることになった私は、カナダでの生活にも慣れて次の生活に余裕と楽しみすら覚えていました。しかし、次のホームステイ先での生活はそれほど甘くはありませんでした。ホストファザーとブラザーは私を温かく迎え入れてくれたのですが、マザーは違い、私はその家の家事を必要以上に手伝わされたり、病気の時ですら子供達の世話を強いられました。毎日毎日辛くて、でも親に迷惑をかけたくはないし、誰にも相談せず、耐えていました。しかしそれにも限界が来て、学校の先生、親に協力してもらい、ホストファミリーと学校を替えました。(学校の安全面に不安があったのも一つの原因です) この時は本当に辛くて、次の生活に不安しか感じず、日々絶望し、日本に帰りたいと思いました。

しかし、次のホームステイ先での生活はとてとても充実したものになりました。ホストファミリーや友達はみんないい人たちばかりで、学校でも日本では決して味わうことのできない、アウトドアクラスに入り、キャンプやカヌーをすることで、もっともっと親しくなれました。今思えば、前の生活があったからこそ、後の生活を有難く感じ、楽しむことができたのではないかと思います。だから、前の家のホストマザーには本当に感謝しています。自分が成長できて強くなれたのは、あの時の生活があったからです。苦しいことも、楽しいことも、全て今ではいい思い出になりました。

留学を無事に終え、自分自身の成長とともにものの見方が変わりました。まず、私の留学の目的は言語を学ぶこと、と行く前までは定めていたのですが、実際行ってみるとカナダの人達と自分たち日本人の間では、互いの文化や習慣の誤解があるなと感じました。カナダに行くまで私はカナダ人はきっと気がとても強

くて自己主張も強いと思い込んでいました。実際、そういった面もありますが、一方、優しく聞いてくれたり、フレンドリーに接してくれたり、お互いをしっかり信頼して尊敬しているという面もありました。逆に日本のことを聞かれて、「日本は A だと思っていたけど、実は B なんだね」と言われることも多くありました。留学して、自分の目で見て体験して初めてわかったこの喜びを他の皆にも味わってほしいと思いました。

大学ではこの留学を活かして国際科に行き、中国語を学びたいと考えています。私は将来、人種差別という社会問題をなくすことに貢献したいのですが、それはやはり留学中も多々感じましたし、先程述べた国同士の誤解の原因になっていると思うのです。現在、中国では日本に対し良くない印象を持っている方が多いのは事実です。それをなくすための第一歩として中国語を専攻し、留学にもう一度挑戦しようと考えています。

将来は CA になり、高校・大学を通して学んだ語学・文化の違いを理解する力を活かし、他国のお客様により快適なサービスを提供するとともに、自ら他国に赴き多くの文化を学び、日本の文化も伝えたいと考えています。いつか、人種差別がなくなれば良いという願いを込めて、自分の夢を追いかけるつもりです。

最後に、今から留学する皆さんはまだ未知の事に期待をたくさん膨らませていると思います。留学に行くことで、自分の人生の見方が本当に変わります。辛いことも楽しいこともたくさんあってこそ成長できるし、これほど貴重な体験をさせてくれる両親に感謝をしっかり伝えてほしい。どんなときも前向きで、楽しくて一生忘れられない思い出になることを願っています。

また、このような貴重な体験の手助けに感謝申し上げます。ありがとうございました。